



はんだが結ぶ絆

ウー シンユエ
吳 心悅

はんだごての温度が三百度まで上がり、銀色のはんだ線が先端に触れると、すぐに小さな玉になりました。しかし、手が震えていた私は、そのはんだをうまくコントロールできず、基板の上に歪んだ形で付けてしまいました。

日本で技能実習を始めたばかりの頃の私は、この整っていないはんだと同じでした。精密な電子部品や厳しい作業基準を前に、基本的なはんだ付けさえ思うようにできませんでした。

電子技能実習生として、はんだ付けは最初に身につけなければならない大切な技術です。しかし、最初は失敗の連続でした。はんだが多すぎると形が崩れ、少なすぎると接触不良になります。日本人の班長は、私の不良品の基板を一枚ずつ確認し、はんだの角度や温度、作業のタイミングまで丁寧に教えてくれました。何度も練習を重ねる中で、日本のものづくりが基準と繰り返しを何よりも大切にしていることを実感し、技能で成長するためには努力の積み重ねが欠かせないと学びました。

何本ものはんだ線を使い、ようやく形がきれいで、しっかりしたはんだ付けができたとき、大きな達成感を覚えました。はんだが溶けて固まるように、私自身の技術と自信も少しずつ形になっていきました。

実習は、技能を身につける場であると同時に、人と人との交流の場でもありました。日本

語の操作画面や専門用語が分からず困っていると、同僚たちは作業を止めて、ゆっくりと分かるまで説明してくれました。

また、私のミスで不良品が出てしまったこともありましたが、その時も上司は責めることなく、一緒に原因を考え、「失敗は成長の一部です」と声をかけてくれました。その一言に、張りつめていた気持ちがほどけ、心が救われたのを今でもよく覚えています。

はんだは、部品と部品を静かに、しかし確かに結びつけます。この実習を通して私が学んだのは、技能だけではなく。失敗を支えてくれた指導者の皆さん、言葉の壁を越えて寄り添ってくれた仲間たちとの出会いを通して、人と人との絆の大切さを実感しました。

はんだが結ぶのは回路だけではなく。技術を通して生まれた信頼と温かい心のつながりこそが、私を成長させてくれたのだと思います。

これからも、この実習で結ばれた絆への感謝を胸に、技能を磨き続け、ものづくりを通して人と人、そして中日を結ぶ技能者として歩んでいきたいと思っています。

受賞の喜び



ウー シンユエ

国 籍 中国
職 種 電子機器組立て
実 習 実 施 者 パナソニック エレクトリックワークス紀南電工株式会社
監 理 団 体 ELC事業協同組合

このたびは、最優秀賞をいただき、本当にうれしく思います。

日本に来たばかりの頃は、日本語も仕事も分からないことが多く、不安な気持ちでいっぱいでした。慣れない環境の中で大変なこともありましたが、監理団体の皆様や会社の皆様がいつも温かく支えてくださったおかげで、ここまで頑張ることができました。

特に職場の班長さんには、仕事だけでなく、日本語や日本での生活についても親切に教えていただきました。困ったときにはいつも声をかけてくださり、本当に感謝しています。

今回の受賞は、決して私一人の力ではありません。いつも応援し、支えてくださった皆様のおかげでいただくことができた賞だと思っています。

この経験を励みに、これからも感謝の気持ちを忘れず、仕事と日本語の勉強を一生懸命頑張りたいと思います。そして、日中両国の架け橋となれるよう努力していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

指導員のことば

シンユエさんが最優秀賞に選ばれたと聞いたときは、自分のことのように本当にうれしく思いました。

シンユエさんは来日してまだ1年ですが、仕事にも日本語の勉強にも真剣に取り組み、誰よりも努力を続けてきました。その積み重ねが、今回の最優秀賞という素晴らしい結果につながったのだと思います。

今回の受賞は、シンユエさん自身の努力はもちろん、監理団体の皆様、会社の皆様、そして職場の班長さんをはじめ、多くの方々の支えがあったからこそその成果だと思っています。

生活指導員として、その成長を身近で見てこられたことを大変うれしく、誇りに思います。

本当におめでとうございませう。これからのさらなる活躍を期待しています。

パナソニック エレクトリックワークス紀南電工株式会社 王 艶玲